



## 2024年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年11月14日

上場会社名 株式会社 サニックス

上場取引所 東 福

コード番号 4651 URL <https://sanix.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 宗政 寛

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経営企画本部経営企画部長 (氏名) 曾我 拓

TEL 092-284-5072

四半期報告書提出予定日 2023年11月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年3月期第2四半期の連結業績(2023年4月1日～2023年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	22,589	0.3	1,481	98.5	1,343	119.6	1,126	154.4
2023年3月期第2四半期	22,649	2.1	746	26.6	611	24.6	442	235.0

(注) 包括利益 2024年3月期第2四半期 1,198百万円 (146.0%) 2023年3月期第2四半期 487百万円 (232.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	23.56	
2023年3月期第2四半期	9.26	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第2四半期	35,252	7,266	20.6	151.59
2023年3月期	33,586	6,068	18.0	126.51

(参考) 自己資本 2024年3月期第2四半期 7,246百万円 2023年3月期 6,047百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
2024年3月期	0.00	0.00			
2024年3月期(予想)			0.00	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	47,965	3.6	3,231	81.0	3,014	94.2	2,495	87.3	52.20

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期2Q	48,919,396 株	2023年3月期	48,919,396 株
期末自己株式数	2024年3月期2Q	1,115,033 株	2023年3月期	1,114,983 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期2Q	47,804,406 株	2023年3月期2Q	47,804,462 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10
3. その他	11
部門別連結売上高	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(2023年4月1日～9月30日)におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」に位置付けられたことを受け、インバウンド需要の回復もあり緩やかに回復してまいりました。しかしながら、不安定な国際情勢の中、資源・エネルギー価格の高騰や円安進行に伴う原材料価格の上昇など、依然として先行き不透明な状況で推移しました。

このような社会情勢において、当社グループは、企業理念である「次世代へ快適な環境を」のもと、住環境領域、エネルギー領域、資源循環領域の各領域において、事業を通じた社会課題の解決を推進し、持続可能な社会づくりに引き続き取り組んでまいりました。

また、当社グループは、既存事業の着実な成長により「稼ぐ力」を強化し、安定的な財務基盤を確保するとともに、戦略投資枠を設定し、将来の成長に向けた積極的な成長投資を開始する期間として「中期経営計画(2024年3月期～2026年3月期)」を策定しました。戦略投資の実行により将来の成長を加速し、更なる戦略投資枠の拡大を目指してまいります。

(詳細は当社ホームページをご参照ください。[https://sanix.jp/report/671/report\\_671\\_784.pdf](https://sanix.jp/report/671/report_671_784.pdf))

売上高につきましては、環境資源開発事業部門が発電売上で今年度の売電契約単価が上がったことにより増収(前年同期比11.9%増)となったものの、新電力事業部門において電力調達コストの上昇によるリスクを回避するため事業縮小を進めたことで減収(前年同期比54.2%減)となりました。この結果、グループ全体の売上高は22,589百万円(前年同期比0.3%減)となりました。

利益につきましては、環境資源開発事業部門において、2023年4月の苫小牧発電所におけるボイラー・タービンの法定点検に伴う修繕費を計上したものの、売電契約単価が上昇したことにより利益が向上しました。この結果、グループ全体の損益は、1,481百万円の営業利益(前年同期比98.5%増)、1,343百万円の経常利益(前年同期比119.6%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,126百万円(前年同期比154.4%増)となりました。

当第2四半期連結累計期間の各セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

#### <住環境領域>

##### H S 事業部門

H S 事業部門では、前期より新規顧客の開拓を重視した営業方針を強化し、顧客基盤の拡充に向けた取り組みを推進してまいりました。この結果、「白蟻防除施工」が堅調に推移し前年同期比9.3%増となったものの、主に既存顧客を対象とした「床下・天井裏換気システム」が前年同期比1.1%減、「基礎補修・家屋補強工事」が前年同期比14.1%減となり、売上高は5,983百万円(前年同期比2.3%減)となりました。

営業損益は、前年同期比減収となったものの、外注工事費の減少、ならびに販管費等の固定費の削減効果により、891百万円の営業利益(前年同期比0.8%増)となりました。

##### E S 事業部門

E S 事業部門では、ビル・マンション等のオーナー及び管理会社等提携先との関係強化を進めてまいりました。主力商品である「防錆機器取付施工(商品名:ドールマンショック)」が前年同期比8.0%増、「建物給排水補修施工」が前年同期比31.6%増、「建物防水塗装補修施工」が前年同期比0.6%増となりました。この結果、売上高は1,326百万円(前年同期比11.4%増)となりました。

営業損益は、前年同期比増収となったことにより、26百万円の営業利益(前年同期比198.7%増)となりました。

##### S E 事業部門

S E 事業部門では、前期に事業部を立ち上げ、戸建てに特化した太陽光発電システム等の販売に注力してまいりました。前年同期比で蓄電池の販売、既設太陽光発電システムのパワーコンディショナー交換工事は増加したものの、業務提携先の開拓に人員を割いたことにより、一時的に売上水準が低下しました。この結果、売上高は594百万円(前年同期比25.0%減)となりました。

営業損益は、減収となったものの採算性の改善を進めたことにより、64百万円の営業損失(前年同期は100百万円の営業損失)となりました。

#### <エネルギー領域>

##### P V 事業部門

P V 事業部門では、企業・法人向けに自家消費型太陽光発電システム等の販売施工、自治体へのPPA事業の提案、土地付太陽光発電所の販売、既設太陽光発電システムの機器交換、メンテナンス等に注力してまいりました。この結果、売上高は4,151百万円(前年同期比21.8%増)となりました。

営業損益は、材料資材等の価格上昇の影響もあり、50百万円の営業損失(前年同期は159百万円の営業損失)となりました。

### 新電力事業部門

新電力事業部門では、電力調達コストの上昇により採算性の確保が困難であると判断し、昨年来、事業縮小を進めてまいりました。この結果、売上高は1,335百万円（前年同期比54.2%減）となりました。

営業損益は、前年同期は相対取引による電力調達の余剰分を、相対調達価格よりも高騰していた卸電力市場での売却により利ざやを得ることができましたが、卸電力市場が落ち着いてきたことに加え、事業縮小による減収もあり、69百万円の営業利益（前年同期比48.2%減）となりました。

### <資源循環領域>

#### 環境資源開発事業部門

環境資源開発事業部門では、廃棄物の受入量が減少したことにより「プラスチック燃料」が前年同期比3.2%減、「廃液処理」が前年同期比2.7%減、「埋立処理」が前年同期比0.3%減となりました。一方、苫小牧発電所の売電契約単価が上昇したことにより「発電所売上」が前年同期比66.3%増となりました。この結果、売上高は9,198百万円（前年同期比11.9%増）となりました。

営業損益は、苫小牧発電所の法定点検による修繕費を計上したものの、売電契約単価が上昇したことにより採算性が向上し、1,981百万円の営業利益（前年同期比27.1%増）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### ① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は35,252百万円となり、前連結会計年度末比で1,665百万円増加しました。負債合計は27,985百万円となり、前連結会計年度末比で467百万円増加しました。純資産合計は7,266百万円となり、前連結会計年度末比で1,198百万円増加しました。その結果、自己資本比率は20.6%（前連結会計年度末は18.0%）となりました。

#### (資産)

流動資産は14,404百万円となり、前連結会計年度末比で720百万円増加しました。主な要因は、受取手形及び売掛金が474百万円減少し、原材料及び貯蔵品が374百万円、現金及び預金が303百万円、未成工事支出金が288百万円それぞれ増加したためであります。

固定資産は20,847百万円となり、前連結会計年度末に比べ945百万円増加しました。主な要因は、建物及び構築物（純額）が104百万円減少し、建設仮勘定が増加したことで有形固定資産のその他（純額）が642百万円、機械装置及び運搬具（純額）が463百万円それぞれ増加したためであります。

#### (負債)

流動負債は17,491百万円となり、前連結会計年度末比で1,109百万円増加しました。主な要因は、支払手形及び買掛金が320百万円減少し、未払金が1,196百万円、短期借入金が391百万円それぞれ増加したためであります。

固定負債は10,493百万円となり、前連結会計年度末比で642百万円減少しました。主な要因は、長期借入金が682百万円、社債が100百万円それぞれ減少したためであります。

#### (純資産)

純資産合計は7,266百万円となり、前連結会計年度末比で1,198百万円増加しました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益1,126百万円を計上したためであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べて523百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末には4,440百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、2,274百万円の収入（前年同期は3,237百万円の収入）となりました。主な要因は、税金等調整前四半期純利益を1,343百万円計上し、未払金が945百万円増加したためであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、1,377百万円の支出（前年同期は445百万円の支出）となりました。主な要因は、有形固定資産の取得により1,370百万円を支出したためであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、397百万円の支出（前年同期は1,046百万円の支出）となりました。主な要因は、セール・アンド・割賦バックによる収入が632百万円あったものの、長期借入金の返済による支出が690百万円、割賦債務の返済による支出が357百万円あったためであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期の連結業績予想につきましては、2023年5月15日に公表しました連結業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,504	4,807
受取手形及び売掛金	4,827	4,352
商品及び製品	163	151
未成工事支出金	134	422
原材料及び貯蔵品	2,901	3,275
その他	1,382	1,499
貸倒引当金	△229	△105
流動資産合計	13,683	14,404
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,355	2,251
機械装置及び運搬具(純額)	4,286	4,749
土地	8,209	8,219
その他(純額)	1,250	1,892
有形固定資産合計	16,100	17,113
無形固定資産	595	595
投資その他の資産	3,206	3,139
固定資産合計	19,902	20,847
資産合計	33,586	35,252
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,463	2,143
電子記録債務	782	664
短期借入金	3,462	3,853
1年内返済予定の長期借入金	1,372	1,364
1年内償還予定の社債	200	200
未払金	3,296	4,493
未払法人税等	350	381
賞与引当金	263	278
再資源化費用等引当金	11	11
その他	4,178	4,102
流動負債合計	16,382	17,491
固定負債		
社債	500	400
長期借入金	5,472	4,789
役員退職慰労引当金	4	4
処分場閉鎖費用引当金	523	550
退職給付に係る負債	2,104	2,153
その他	2,531	2,595
固定負債合計	11,135	10,493
負債合計	27,518	27,985

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	14,041	14,041
利益剰余金	△6,666	△5,539
自己株式	△1,481	△1,481
株主資本合計	5,893	7,020
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	72	90
為替換算調整勘定	106	148
退職給付に係る調整累計額	△24	△12
その他の包括利益累計額合計	154	226
非支配株主持分	20	19
純資産合計	6,068	7,266
負債純資産合計	33,586	35,252

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	22,649	22,589
売上原価	14,581	14,040
売上総利益	8,068	8,548
販売費及び一般管理費	7,322	7,067
営業利益	746	1,481
営業外収益		
受取利息	7	6
受取配当金	1	2
受取地代家賃	31	31
その他	46	32
営業外収益合計	87	72
営業外費用		
支払利息	154	128
固定資産除却損	38	57
その他	29	24
営業外費用合計	221	210
経常利益	611	1,343
税金等調整前四半期純利益	611	1,343
法人税、住民税及び事業税	123	220
法人税等調整額	46	△2
法人税等合計	170	217
四半期純利益	441	1,126
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△1	△0
親会社株主に帰属する四半期純利益	442	1,126

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	441	1,126
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1	17
為替換算調整勘定	44	42
退職給付に係る調整額	0	12
その他の包括利益合計	45	72
四半期包括利益	487	1,198
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	488	1,198
非支配株主に係る四半期包括利益	△1	△0

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	611	1,343
減価償却費	880	806
賞与引当金の増減額(△は減少)	△15	14
処分場閉鎖費用引当金の増減額(△は減少)	57	27
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	50	61
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△89	△48
受取利息及び受取配当金	△8	△8
支払利息	154	128
売上債権の増減額(△は増加)	2,310	474
棚卸資産の増減額(△は増加)	△711	△631
その他の流動資産の増減額(△は増加)	213	△111
仕入債務の増減額(△は減少)	△499	△461
未払金の増減額(△は減少)	△311	945
未払消費税等の増減額(△は減少)	323	△329
その他の流動負債の増減額(△は減少)	96	195
その他	428	85
小計	3,489	2,492
利息及び配当金の受取額	8	9
利息の支払額	△157	△127
法人税等の支払額	△149	△191
法人税等の還付額	46	91
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>3,237</b>	<b>2,274</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△435	△278
定期預金の払戻による収入	610	516
有形固定資産の取得による支出	△560	△1,370
有形固定資産の売却による収入	0	10
無形固定資産の取得による支出	△42	△106
その他	△18	△149
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△445</b>	<b>△1,377</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の増減額(△は減少)	△5,640	391
長期借入れによる収入	5,053	—
長期借入金の返済による支出	△193	△690
社債の償還による支出	△100	△100
セール・アンド・リースバックによる収入	50	—
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△258	△269
セール・アンド・割賦バックによる収入	357	632
割賦債務の返済による支出	△303	△357
その他	△11	△3
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△1,046</b>	<b>△397</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	15	24
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,761	523
現金及び現金同等物の期首残高	3,243	3,916
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,004	4,440

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第2四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							調整額 (注) 1	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 2
	HS 事業部門	ES 事業部門	SE 事業部門	PV 事業部門	新電力 事業部門	環境資源 開発 事業部門	合計		
売上高									
外部顧客への 売上高	6,126	1,190	791	3,408	2,914	8,218	22,649	—	22,649
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	6,126	1,190	791	3,408	2,914	8,218	22,649	—	22,649
セグメント利 益又は損失 (△)	883	8	△100	△159	133	1,558	2,325	△1,579	746

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用1,579百万円であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第2四半期連結累計期間(自2023年4月1日至2023年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							調整額 (注) 1	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 2
	HS 事業部門	ES 事業部門	SE 事業部門	PV 事業部門	新電力 事業部門	環境資源 開発 事業部門	合計		
売上高									
外部顧客への 売上高	5,983	1,326	594	4,151	1,335	9,198	22,589	—	22,589
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	5,983	1,326	594	4,151	1,335	9,198	22,589	—	22,589
セグメント利 益又は損失 (△)	891	26	△64	△50	69	1,981	2,853	△1,371	1,481

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用1,371百万円であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 3. その他

部門別連結売上高

(単位：百万円)

品 目	期 別	数 量 単 位	前第2四半期 連結累計期間 自 2022年4月1日 至 2022年9月30日		当第2四半期 連結累計期間 自 2023年4月1日 至 2023年9月30日		比 較 増 減	
			数 量	金 額	数 量	金 額	数 量	金 額
白蟻防除施工		千坪	319	2,099	364	2,294	44	194
床下・天井裏換気システム		—	—	1,514	—	1,497	—	△16
基礎補修・家屋補強工事		軒	1,999	858	1,662	737	△337	△121
その他		—	—	1,653	—	1,453	—	△199
H S 事業部門計		—	—	6,126	—	5,983	—	△142
防錆機器取付施工		本	397	456	448	493	51	36
建物給排水補修施工		—	—	364	—	479	—	115
建物防水塗装補修施工		—	—	171	—	172	—	0
その他		—	—	197	—	181	—	△16
E S 事業部門計		—	—	1,190	—	1,326	—	136
太陽光発電システム		—	—	791	—	594	—	△197
S E 事業部門計		—	—	791	—	594	—	△197
太陽光発電システム		—	—	3,286	—	4,089	—	803
太陽光発電システム卸販売		—	—	74	—	14	—	△60
その他		—	—	47	—	47	—	△0
P V 事業部門計		—	—	3,408	—	4,151	—	743
売電収入		—	—	2,914	—	1,335	—	△1,579
新電力事業部門		—	—	2,914	—	1,335	—	△1,579
プラスチック燃料		t	135,908	4,875	135,577	4,719	△331	△156
発電所売上		—	—	1,574	—	2,618	—	1,044
廃液処理		t	50,954	1,037	48,038	1,009	△2,915	△27
埋立処理		—	—	488	—	486	—	△1
その他		—	—	241	—	364	—	122
環境資源開発事業部門計		—	—	8,218	—	9,198	—	980
その他		—	—	—	—	—	—	—
セグメント間の内部売上高調整額		—	—	—	—	—	—	—
売上高計		—	—	22,649	—	22,589	—	△60

(注) 取扱品目が多岐にわたり数量の把握が困難なものは、記載を省略しております。